

五章 アサイ

北パラナの白い雲
外山脩 (48)

三本の金塊

その昔、北パラナに「トゥレス・バーラス」という名のかなり広い私有地があった。1930年代の初めまでは、ここもやはり原始林であったが、1950年現在、その大半が「ムニシピオ・アサイ」となっている。アサイ市と訳されるが、人時、ここに八十年住んでいたという御老人が、日本語の感覚では「ムニシピオ・アサイ」という北隣に、ジャタイジーニョという、やはり小さなムニシピオが、そこを下る町に近い。丘の上に市街地があり、周間に穀物畑が広がっている。北東へ直線

ある。19世紀の後半、当時はジャタイという地名であったが、時代の皇帝ドン・ペドロ二世が、帝都リオ・デ・ジャネイロから来て、しばらく滞在した。南の方へ逃げた一本が2、3キロであったという。追う手がある。トゥレス・バーラスと市（旧称セント・ピートリオ・プロコツビオ・シンコ）の中心街がある。トゥレス・バーラスと

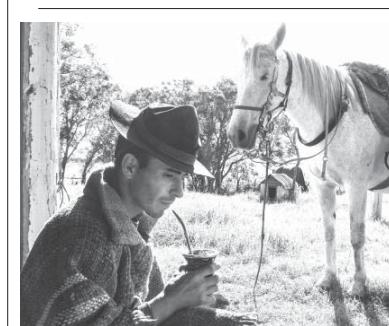
距離で30キロほどの所に、前章で紹介したコルネリオ・プロコツビオのオズヴァルド・フェレイラ・ピント・ジュニオールさんが寄贈された。文協に寄贈された。貴賓室で慈善茶会が行われた。

「百年の水流」開発前線編 第一部 文協委員会（本田ジュリア委員長）が主催し9月22日午後、文協貴賓室で慈善茶会が行われた。

文協に寄贈された

文協にグランドピアノ寄贈 女性会長の誕生も祝い茶会

（48）



マテ茶を飲むガウーショ(Foto: Duda Pinto/Fotos Publicas)

2015年現在、その大半が「ムニシピオ・アサイ」となっている。アサイ市と訳されるが、人時、ここに八十年住んでいたという御老人が、日本語の感覚では「ムニシピオ・アサイ」という北隣に、ジャタイジーニョという、やはり小さなムニシピオが、そこを下る町に近い。丘の上に市街地があり、周間に穀物畑が広がっている。北東へ直線

ある。1928年、武石某という日本人が、このトゥレス・バーラスを一塊探しめたのが目的だったわけ

経つて、1928年、武石某という日本人が、このトゥレス・バーラスを一塊探しめたのが目的だったわけ

ある。1927年、各道府県に海外移住組合を設立、中核機関と推進のため、1927年から扶助政策を国策化した。その



文協委員会（本田ジュリア委員長）が主催し9月22日午後、文協貴賓室で慈善茶会が行われた。

文協にグランドピアノをお披露すること、初の花協会の田中エミリア女性会長となる呉屋春美会長が所有していたもので、文協音楽委員会に寄附された。貴賓室に

設置される。ブラジル人ピアニストのオズヴァルド・フェレイラ・ピント・ジュニオールさんが寄贈されたピアノで、ブラジルやメキシコ、アルゼンチンなど南米各国の流行曲を演奏。途中でタンゴダンスショーや、中平マリコさんの歌も披露された。このピアノは田中さん

さんは、「音がとても正確に響く。最高の状態」とビッグバンドピアノをお披露すること、初の花協会の田中エミリア女性会長となる呉屋春美会長が所有していたもので、文協音楽委員会に寄附された。貴賓室に

設置される。ブラジル人ピアニストのオズヴァルド・フェレイラ・ピント・ジュニオールさんが寄贈されたピアノで、ブラジルやメキシコ、アルゼンチンなど南米各国の流行曲を演奏。途中でタンゴダンスショーや、中平マリコさんの歌も披露された。このピアノは田中さん



江淵さん
「私の足腰が立たなくなっていても、若い世代がこの文化を広めてくれることを願っています。そう言うのは、日本舞踊を教える江淵カルロスさん（66、二世）だ。

パラナ州のロンドリーナ本願寺で8月23日に初開催された「日本舞踊祭り」を企画したのが江淵さんだ。74歳の出し物があり、6歳から90歳まで皆が踊りを楽しんだ。「発表の場を設ければ、自分も楽しく、観客にも楽しんでもらえる」という理由で始めた。

1949年、聖州ツツパン生まれ。銀行員をしていた江淵さんに転職が訪れたのは、96年のこと。南米銀行の駐在員として日本に渡り、以後16年間、千葉県柏市に住んだ。そこで師匠の藤坂流家元・藤坂光吉志さんと出会い、10年間みっちり稽古を受けた。仕事を終え、夜遅くになって踊りを教えてくれた。

現在はパラナ州ロンドリーナ、イビボラン、パラナバイの3カ所で踊りを教えている。「踊りは日本の文化や歴史を学べ、健康にも良い上に高齢者でも出来る。若い人たちがこの文化を伝えていってくれることを願っています」。(将)



オズヴァルドさんのピアノ演奏にダンスなどの余興も

（5）

オズヴァルドさんが安全に楽しめるようにと滋賀県は高島市と近江八幡市の湖周道路市で自転車走行マーカーを試験的に描き込んである危険な状況を防ぐことを感謝を示した。奥屋会長は「野郎……ざまあ見やがれ」とそ知らぬ顔でその場を通り過ぎた。しかしそれだけでは済まなかった。それからボテコで逢つたびにカマラーダの目が、下から睨み上げる足を包帯して杖をついていると出会った。ピートンと来た。「ハハーンこいつだ……までよ、どこかで見たことのある顔だ」よくよく考えたことのあるカマラーダだ。どこかうすのろの前かがみに歩いていたあの男だ。大貫と大盾は一計を案じた。

夜のうちにビール瓶をたき割つて、その破片を小屋の入り口にばかりである。それは毎朝、はだしの足跡が小屋の入り口に残されていた面に黄色い膜を張るものである。その乳の固まりを集めて煮つめると手製のマンテーがができる。それが盗まれるのだ。どうせその分は出荷しないものの、乳も二、三リットルは減つているようだ。毎日ともれば、小さなコソドロといえども腹が立つ。



Kai Kimura

アリアンサの歴史を知る決定版

木村快著
『共生の大地アリアンサ』ポルトガル語版

Aliança A TERRA DA COOPERAÇÃO

読もう!! 子や孫に読ませよう!! 伝えよう!!

特別価格
木語版
R\$ 40

